

# 新潟県立長岡聾学校

## きこえ通信

令和5年度 第2号

新潟県立長岡聾学校通級指導教室

〒940-0093 長岡市水道町2-1-13

TEL 0258-38-0210 (通級指導教室)

\*不在の場合5コール程で代表に自動で繋がります。

FAX 0258-39-5665

e-mail [school@nagaokarou.nein.ed.jp](mailto:school@nagaokarou.nein.ed.jp)

発行：令和5年5月文責 柳原

# 体育館、グラウンドなどでのきこえについて

新しい学校、新しい学年でドキドキした4月が終わりました。児童生徒の皆さんは、新しい環境に慣れたでしょうか。連休で、ゆっくり休んだりエネルギーを補ったりすることができたでしょうか。

5月になりました。小学校では5月から6月に運動会を行う学校が多いと思います。また中学校や高校では、大会などに向けて部活の練習が本格化する時期です。難聴のある児童生徒は、補聴器や人工内耳を装用しても、体育館やグラウンドで指示やスタートなどの合図がきこえにくいことがあります。

### きこえにくい例

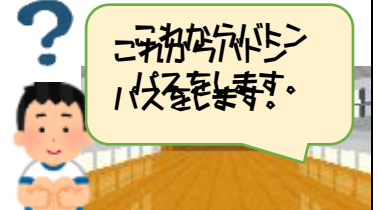
話す人と自分の距離が遠い



周囲の騒音がある

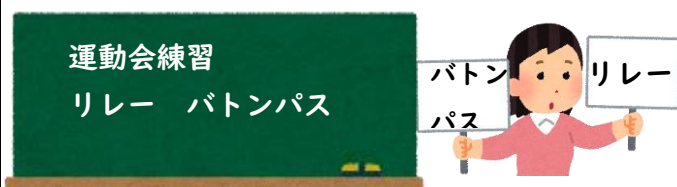


音が響く



↓ 上記への支援例です。他の児童生徒にとってもわかりやすい支援もあります。

グラウンドや体育館で行う内容を教室で事前に確認する。ホワイトボード等を持参し、活用する。

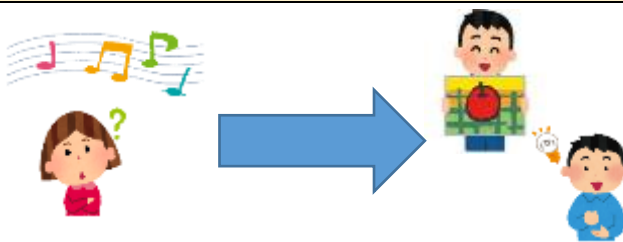


スタートなどの合図は、音だけでなく、視覚的にわかる旗などを用いる。



難聴の児童生徒が不利にならないような、ルールや視覚情報を工夫する。

補聴援助システム(ロジャー等)が必要な場合は使用する。\*該当する児童生徒



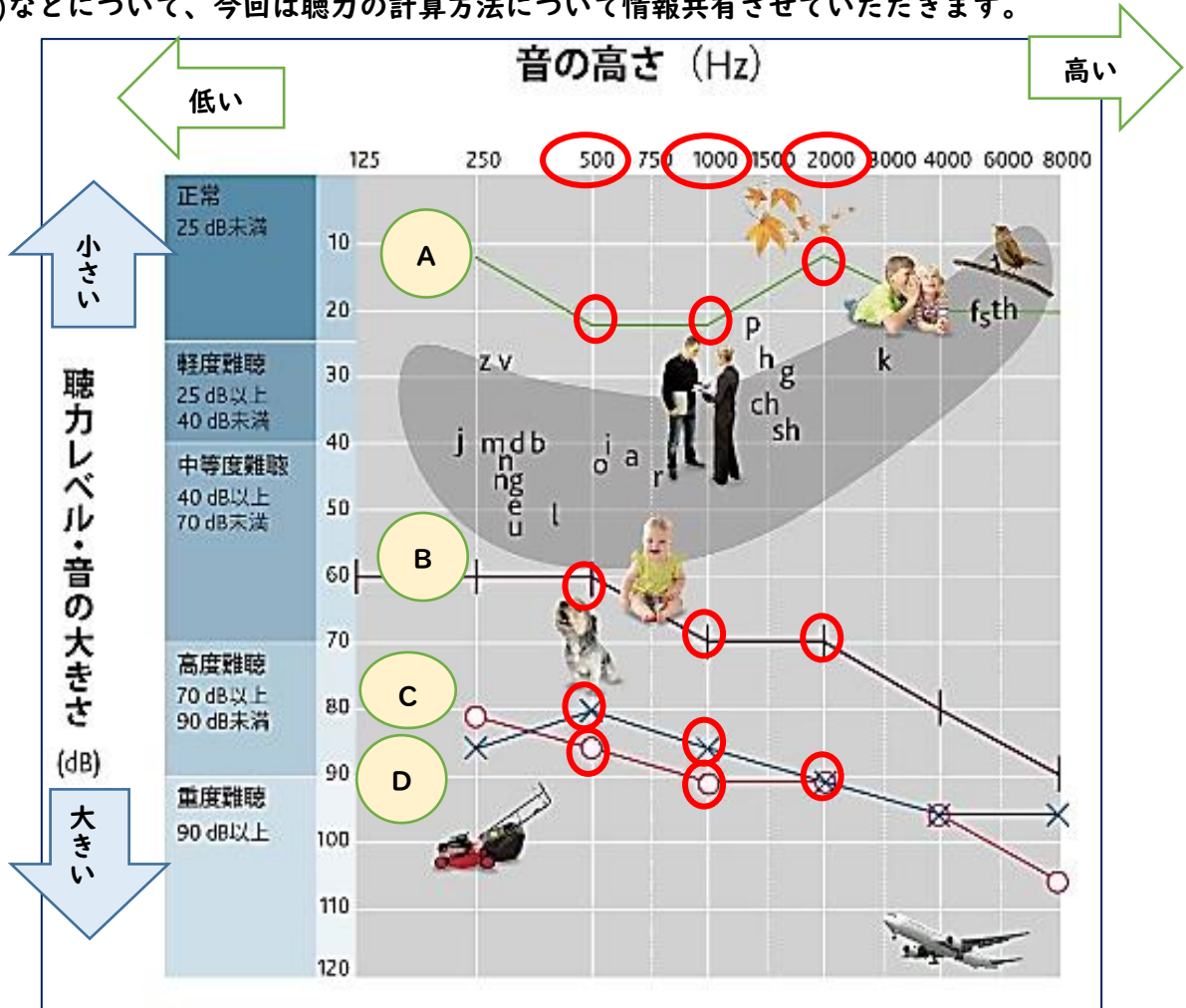
ロジャー使用の有無に関わらず、話す人の近くに並ぶことも大切です。



☆全てこれと同じにする必要はありませんが、練習の様子や本人の希望などから、各学校の実情に合わせて支援をお願いいたします。「きこえにくいのでこうしてほしい」と自分から伝えることも大切です。

## ～オーディオグラム(きこえの検査結果)からわかること～

オーディオグラムについてよく聞かれるのが「これはどうやって見るのでしょうか?」、「これで何が分かるのでしょうか?」ということです。今回は聴力の計算方法について情報共有させていただきます。



Cochlear(コクレア)社\*HP より

聴力は、上記の○で囲んだ数値(会話に必要とされている周波)の音の大きさを計算することが多いです。次の方法で計算します。

$$\{ \text{「500Hzの数値」} + \text{「1000Hzの数値」} \times 2 + \text{「1000Hzの数値」} \} \div 4$$

Aの場合、500Hzは22dB、1000Hzは22dB、2000Hzは12dBとして、  
 $\{ 22 \text{ dB} + (22 \text{ dB}) \times 2 + 12 \text{ dB} \} \div 4 = 19.5 \text{ dB}$  となります。

Bの場合、500Hzは60dB、1000Hzは70dB、2000Hzは70dBとして、  
 $\{ 60 \text{ dB} + (70 \text{ dB}) \times 2 + 70 \text{ dB} \} \div 4 = 67.5 \text{ dB}$  となります。

計算は省略しますが、Cは88.8dB、Dは85dBです。

B、C、Dのように4000Hzや8000Hzの高い周波数がきこえにくい、ここにはありませんが、低い周波数がきこえにくい場合は、実際にはきこえにくい周波数があるのに、計算で算出される聴力には現れません。それぞれどんなことで困るのか、次回お伝えいたします。